

FM 文理融合科目 A(B)

シラバス

【学務情報システム未掲載科目】

2024 年度

(2024.4.1 現在)

未来型医療創造卓越大学院プログラム

*シラバスは学務情報システムに掲載しています。

・Dコース、Tコース、Sコースの学生は、自分のコースの科目1単位と、異なるコースの科目1単位、計2単位(以上)を履修する必要があります。どちらか一方の科目を2単位履修しただけでは要件は満たされません。

・後期課程、医・歯・薬履修課程の学生が受講するときは、「FM文理融合科目B」となります。その場合は、前期課程及び修士課程に在学中に履修した科目以外から選択することになります。

(前期課程・修士課程を経ずに、直接履修課程に入学した学生は、すべての科目から選択が可能です。)

・授業のタイトル、開講曜日・校時は変更される場合があります。

・各自、履修登録が必要です。(学務情報システムまたは所属研究科教務係)

授業科目 (英文名)	(選択科目) 形質人類学基礎 【未来型医療創造卓越大学院 プログラム】	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 敏彦 波田野 悠夏 澤浦 亮平
単位数	1	科目ナンバリングコード	DDE-DEN 603
開講 曜日・講時	後期	場所	講義はGoogle Classroom等による動画配信；実習時間・場所は未定（受講者の人数・属性によって決定する）
授業の目標並びに目的 と概要	人類学とは、発達した文化を持つ生物種としてのヒトを総合的に研究する学問である。本授業では、人類の身体形質を対象として主に自然科学的観点からヒトを探求する形質人類学の基礎を学ぶ。特にヒトをはじめとした骨や歯の知識は、医学だけではなく考古学、文化財科学、刑事司法など多方面でもその必要性が認識されており、本授業では骨や歯の肉眼形態的観察を通して形質人類学の基礎的知識を習得することを特色とする。		
学習の到達目標	一般目標：骨や歯の肉眼形態観察を通して形質人類学の基礎を習得する。 個別目標：①形質人類学の定義について説明できる。 ②形質人類学の他領域への適用について説明できる。 ③骨や歯の形態が形質人類学に寄与する理由を理解する。 ④人体の方向や部位の表現方法を理解する。 ⑤人体を構成する骨格を理解し、主な骨を肉眼的に識別できる。 ⑥ヒトの歯の形態的特徴を理解し、主な歯を肉眼的に識別できる。		
授業の内容・方法と進 度予定	1 (講義) 形質人類学とは 2 (講義) 人類進化と化石人類 3 (実習) ヒトの骨格① 4 (実習) ヒトの骨格② 5 (実習) ヒトの骨格③ 6 (講義) 古人骨と日本人のルーツ 7 (講義) 古人骨の発掘と整理作業 8 (講義) ヒトの骨からわかること 9 (講義) 歯の形質人類学 10 (実習) ヒトの歯		
授業時間外学習	授業および学習の到達目標や授業内容・進度に応じた準備学習が求められる。		
テキスト・教材・参考 書等	適宜紹介する。		
成績評価の方法	レポートによる。		
備 考	実際の履修内容の詳細については、入学当初のガイダンスや指導教員に従ってください。		
履修登録について	本科目の履修を希望する場合は、下記宛に履修希望の旨と自分の連絡先を伝え、履修の許可を得ること。 歯科法医情報学分野 鈴木 敏彦准教授 suzk@tohoku.ac.jp		

授業科目 (英文名)	(選択科目) 医の倫理・社会の倫理 【未来型医療創造卓越大学院プログラム】 Medical Ethics and Social Ethics	授業担当者 (責任者に○)	○鈴木 敏彦
単位数	1	科目ナンバリングコード	DDE-DEN 704
開講 曜日・講時	前期 木曜日・3~4講時	場所	歯学研究科実習講義棟 (B棟) B1講義室
授業の目標並びに 目的と概要	<p>倫理について深く考え、医療人としての倫理観を啓発する機会とする。 概要：学内外から招聘する多彩な講師の講義を受講し、「医療倫理」「生命倫理」「社会倫理」「研究倫理」に関して広く学ぶ。</p> <p>「医の倫理・社会の倫理」を学ぶことで卓越大学院研究を遂行し、これを通して医療従事者・関係者としての倫理および社会構成員としての倫理を身につけた研究者、教育者、医療者、行政者、開発者等となることにより、未来の医療に挑戦することを期待する。</p>		
学習の到達目標	<p>一般目標：多彩な分野の講師から直接講義を受け、医療人として具備すべき倫理について学ぶ。 個別目標：① 医療倫理、生命倫理の基本について概説できる。 ② 社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。</p>		
授業の内容・方法と 進度予定	<p>1 医療倫理と医療安全 I 担当：歯学研究科 教員</p> <p>2 医療倫理と医療安全II 担当：伊藤道哉 東北医科薬科大学 准教授</p> <p>3 先天異常にかかわる倫理 担当：安田峯生 広島大学 名誉教授</p> <p>4 薬害肝炎との闘い 担当：山口美智子 薬害肝炎全国原告団 前代表</p> <p>5 聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと 担当：宮城教育大学 特別支援教育講座 教授</p> <p>6 遺伝学的検査の倫理 担当：武藤香織 東京大学 医科学研究所 教授</p> <p>7 学術研究の倫理 担当：羽田貴史 東北大学名誉教授</p> <p>8 救急科からみた医療安全と緊急対応 担当：伊関憲 福島県立医科大学 医学部 教授</p> <p>9 新生児の倫理 (生と死の臨床における歯科医療) 担当：武田康男 東アジアグループの集い 代表</p>		
授業時間外学習	授業および学習の到達目標や授業内容・進度に応じた準備学習が求められる。		
テキスト・教材・ 参考書等	特になし		
成績評価の方法	出席およびレポートによる		
備 考			
履修登録について	<p>本科目の履修を希望する場合は、下記宛に履修希望の旨と自分の連絡先を伝え、履修の許可を得ること。</p> <p>歯科法医情報学分野 鈴木敏彦 准教授 suzk@tohoku.ac.jp</p>		

授業科目 (英文名)	(選択科目) イノベティブ基礎歯学 【未来型医療創造卓越大学院プログラム】 Innovative dentistry	授業担当者 (責任者に○)	○小坂 健 千葉 美麗
単位数	1	科目ナンバリングコード	DDE-DEN 704
開講 曜日・講時	後期 火曜日・1講時	場所	歯学研究科基礎研究棟 (A棟・B棟) A1講義室・B3実習室
授業の目標並びに 目的と概要	<p>目標と目的：超少子高齢社会の日本において必要となる、あらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療のための基礎的知識を習得する。</p> <p>概要：異分野融合型歯学、先端歯科医療、医療コミュニケーション、統合的硬組織バイオロジー、咀嚼・嚥下機能、要介護高齢者に対する歯科訪問診療・摂食嚥下支援、スポーツ歯学、周術期歯科医療など、これからの歯学・歯科医療において、緊急性・重要性の高い領域について学ぶ。</p> <p>※五大学連携事業：課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」(文部科学省事業：平成26年度～平成30年度)で行われたコア科目をベースに講義を行う。</p>		
学習の到達目標	<p>一般目標：将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。</p> <p>個別目標：</p> <p>①異分野融合型の歯学および先端歯科医療について説明できる。</p> <p>②適切な患者対応を行うためのコミュニケーションに関する知識、技能、態度を習得する。</p> <p>③硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置づけを確認する。</p> <p>④正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能について理解する。</p> <p>⑤要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する</p> <p>⑥スポーツ歯学、周術期の歯科医療について理解する。</p>		
授業の内容・方法と 進捗予定	<p>1 課題解決型高度医療人材養成プログラムが目指すこと</p> <p>2 異分野融合型先端歯学・歯科医療：先端的歯科医療とは</p> <p>3 異分野融合型先端歯学・歯科医療：異分野融合型歯学とは</p> <p>4・5 ティラード・コミュニケーション概論</p> <p>6・7 長寿を支える硬組織バイオロジー</p> <p>8・9 摂食嚥下のメカニズム</p> <p>10・11 地域連携と摂食支援</p> <p>12・13 スポーツ歯学</p> <p>14・15 周術期の歯科医療</p>		
授業時間外学習	準備学習および理解度確認のための課題等を求めることがある。		
テキスト・教材・ 参考書等	別途指示される場合があるので、それに従うこと。		
成績評価の方法	出席およびレポート等から総合的に判断する。		
備 考	講義の内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。		
履修登録について	<p>本科目の履修を希望する場合は、下記宛に履修希望の旨と自分の連絡先を伝え、履修の許可を得ること。</p> <p>歯学イノベーションリエゾンセンター 千葉美麗</p> <p>mirei.chiba.d6@tohoku.ac.jp</p>		

授業科目 (英文名)	(選択科目) 口腔健康科学特論 【学際高等研究教育院指定授業科目】 Oral Health Science	授業担当者 (責任者に○)	○高橋 信博 他
単位数	2	科目ナンバリングコード	DDE-DEN 704
開講 曜日・講時	後期 (11月上旬)	場所	オンラインによる受講
授業の目標並びに 目的と概要	<p>ヒトのからだの入口であり、精緻な形態と精密な機能を持つ口腔には膨大な数の微生物が生息し、また、歯科医療に伴い種々のバイオマテリアルが使用される。このような環境を持つ口腔は、ヒトと微生物とバイオマテリアルの調和的共存、すなわち健康の維持を考える良いモデルである。本特論では、歯学、工学、材料学などの分野連携に基づく口腔健康科学を学び、その独自性と普遍性を理解することを目的とする。授業形態は主にオンラインによる受講とする。</p>		
学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 口腔の形態と機能の概要を説明できる。 2 口腔に生息する微生物叢の概要を説明できる。 3 口腔領域における免疫反応の概要を説明できる。 4 口腔における代表的疾患であるう蝕や歯周病の概要について説明できる。 5 口腔におけるバイオマテリアルの機能と調和の概要について説明できる。 		
授業の内容・方法 と進度予定	<p>オンライン (Google Classroomを予定) で以下6名分を受講し、それぞれの講義についてレポートを提出すること (計6篇、形式任意)</p> <p>小坂 健 教授 小関 健由 教授 山田 聡 教授 高橋 信博 教授 鈴木 治 教授 他1名</p> <p>※ なお、レポート提出後、内容に関してディスカッションを行う場合がある。</p> <p>レポート提出期限：2025 年 1 月中旬予定 (詳細は別途通知) 提出方法：Google Classroomにて提出 (予定)</p>		
授業時間外学習	受講後は、内容について整理・復習し、理解を深めること。		
テキスト・教材・ 参考書等	特になし		
成績評価の方法			
備 考	それぞれの講義についてのレポート (内容の要約と考察) による。		
履修登録について	<p>本科目の履修は制約があるので主任指導教員と相談の上選択すること。</p> <p>他研究科の学生は、履修登録機関に本科目履修希望の旨を所属研究科の教務係に申し出ること。</p> <p>後期履修登録期間後、受講可能となったら、履修登録者に個別に通知する (11 月上旬)</p>		